

河川20 仁淀川改修工事(高知県)

| No. | 資料名 | ストック効果に関する記述 |
|------|--|--|
| 高知75 | 続・日高村史編纂委員会編「続 日高村史」(日高村教育委員会、2013年)、124-125頁 | <p>水害の歴史 (中略) そして、昭和三〇(一九五五)年、日下川放水トンネルの掘削工事が始まるが、これは、日下川流域の治水の歴史上、画期的なことであった。三五年に完成してからは、水防について多大な効果が見られた。 (中略) 五五年には、日下川放水トンネルの排水をスムーズにするために、県営事業として日下川と戸梶川の改修工事も始められた。そして、日下川放水トンネルは、五年をかけて昭和五七年に完成した。また、昭和五八年より国の事業として建設省が行う神母樋門の改築工事が始められ、六二年に完成を見た。次いで平成三年、同じく国の事業で江尻の堤防の改修工事が完成して強固になり、神母樋門との一体性で治水効果がさらに高められた。 これらの水防設備の完成は、日高村の人々の悲願の達成でもあった。これによって、はるか昔から連続と続いてきた日高村の人々と水害との闘いに、ひとまず終止符が打たれることとなったのである。</p> |
| 高知75 | 続・日高村史編纂委員会編「続 日高村史」(日高村教育委員会、2013年)、131頁、133頁 | <p>日下川放水トンネル 昭和五七(一九八二)年、待ちに待った日下川放水トンネルが完成し、二月に村を挙げて竣工式が行われた。取水口での通水式では、一〇〇〇人の関係者や村の人たちが見守るなか、建設大臣代理、四国地方建設局長、高知県知事が通水門のスイッチを入れると、水がトンネル内に吸い込まれ、見物人から割れるような拍手が起こった。引き続き日高中学校での祝賀行事には三〇〇〇人が集まった。餅投げ、日高村の伝統の踊りや音楽演奏などに、村の人たちはお祭り気分喜びをあらわした。水害の苦難から解放される歴史的な日であった。 (中略) 平成一三年、国土交通省により日下川放水路呑口に待望の可動堰が設置された。これは、ゴム製の堰が可動し、通常は水を放水路より下流の日下川に流して安定した水の供給ができ、大雨による出水のときに水が可動堰を越え始めると、日下川放水路へ水が流れ込むように設計されている。日下川や戸梶川の上流部の浸水対策や、下流域の水量確保と水質改善に大きな効果をもたらすものである。</p> <p>神母樋門 (中略)日下川放水トンネルと神母樋門によって堅固にガードされ、日高村は「水害のない村」へと生まれ変わった。 平成一三(二〇〇一)年、神母樋門の下流にある日下川導流堤の改修工事が完成した。道流堤は水の流れと土砂の移動を誘導するためのもので、この工事によって川道も広くなり、以前のように水が滞留してしまうこともなく、流れがスムーズになった。水害のない村づくりへさらに前進したのである。</p> |

河川20 仁淀川改修工事(高知県)

| No. | 資料名 | ストック効果に関する記述 |
|-------|--|--|
| 高知76 | 日高のくらし編集委員会編「日高のくらし」(日高町教育委員会、2011年)、104-105頁 | <p>日下川放水路 水害から村を守るために作られたものとして、もう一つあげられるのが日下川放水路です。日下放水路は新旧二つあり、旧の放水路は1960年(昭和35年)に完成、(中略) しかし、この放水路だけでは排水能力が十分ではなく、1975、1976年(昭和50、51年)の台風5号、17号の時には2年続きで日高村は大きな水害を受けました。 そこで、1977年(昭和52年)から国の事業として、新しい日下放水路工事が行われました。(中略)1982年(昭和57年)に完成しました。この放水路は旧の放水路の約3倍の放水能力があり、これで、日高村は長い間苦しめられてきた水害からののがれられる見通しがたちました。</p> |
| 高知77 | 土佐市史編集委員会編「土佐市史」(土佐市、1978年)、1106頁、1115頁 | <p>波介川の第二次改修 (中略) 戦後第二次の改修工事は八年余の歳月を費して一応終わった。改修の効果は逐次あらわれて湛水被害は次第に少なくなっていくらかの美田ができたことはたしかである。</p> <p>仁淀川治水 (中略) 仁淀川の本格的な改修は、昭和二十三年八月建設省直轄河川に編入以来着々とその成果をあげている。</p> |
| 高知79 | 明神健太郎編「佐川郷史」(明神健太郎、1972年)、530-531頁 | <p>日下川の改修 昭和三十一年、古来宿命の水禍として諦観されてきた日下川の大改修が計画され、日下川改修水利組合を結成、日下暮月より下流を更えて放水隧道三〇〇メートルを川内村南谷に抜いて仁淀川八田堰下流に放流する大工事が四億千八百万円、五ヶ年計画をもって同三十二年二月鹿島建設企業会社の手によって着工され、同三十七年完工、ながい歴史の年月にわたって宿命の水禍に悩まされた加茂、日下窪地農家三百戸の耕作する四百町歩の美田化が成った。</p> |
| 高知197 | 国土交通省四国地方整備局編「宇治川床上浸水対策特別緊急事業(事後評価)」(平成23年度第5回事業評価監視委員会資料、2012年)、12頁 | <p>宇治川床上浸水対策特別緊急事業の事業効果 完成以後も、床上特緊急事業の着手以前には床上浸水が発生していた規模の降雨は度々発生している。しかし、放水路等の効果により床上浸水被害は概ね防止された。</p> |

河川20 仁淀川改修工事(高知県)

| No. | 資料名 | ストック効果に関する記述 |
|-------|--|--|
| 高知338 | 国土交通省四国地方整備局編「波介川床上浸水対策特別緊急事業(事後評価)」(平成28年度第4回事業評価監視委員会資料、2017年)、15頁、18頁 | <p>完成後確認された事業効果</p> <p>平成24年5月の運用開始以降、平成29年2月現在で合計19回の運用を行った。特に、平成26年8月に発生した台風12号、11号では、平成17年9月洪水(家俊観測所総雨量293mm)を上回る記録的な豪雨が連続して発生したが、波介川河口導流路への運用により浸水被害が大幅に軽減され、事業の大きな効果が確認された。</p> <p>平成26年出水を踏まえた地域の声</p> <p>平成26年台風12号及び11号の出水を踏まえ、地元土佐市の広報紙で土佐市長及び各団体のコメントが紹介されている。</p> <p>■土佐市長</p> <p>波介川河口導流路の効果は非常に大きく、当該事業に深いご理解ご協力をいただいた新居地区の皆様方はもとより、国土交通省など関係の方々、そして整備に向けご尽力いただいた議員各位、たくさんの方々に改めて感謝申し上げます。</p> <p>■土佐市農業協同組合</p> <p>波介川河口導流事業の効果はあったと思うが、上流部ではまだ浸水があるため、引き続きの整備が望まれる。</p> |

河川20 仁淀川改修工事(高知県)

| No. | 資料名 | ストック効果に関する記述 |
|-------|---|--|
| 高知338 | 国土交通省四国地方整備局編「波介川床上浸水対策特別緊急事業(事後評価)」(平成28年度第4回事業評価監視委員会資料、2017年)、19-21頁 | <p>その他の事業効果</p> <p>(1)浸水被害軽減に向けた土佐市の取り組み 土佐市では本事業を契機に、市民の防災意識の向上と洪水時の人的被害軽減に向けた取り組みを積極的に推進している。 具体には、波介川洪水ハザードマップの作成・公表、防災教育、住民参加型の避難所運営マニュアルの作成、自主防災組織の活動支援などを実施している。</p> <p>(2)地域の歴史・文化への配慮等 波介川河口導流事業起業地は、上ノ村遺跡、北ノ丸遺跡、新居城跡等の埋蔵文化財が広く分布しているため、高知県教育委員会により発掘調査及び出土遺物等の整理作業が実施され、埋蔵文化財が管理・活用されている。 (中略) 波介川河口導流事業では、遺構の石材の一部を当該事業で新設した護岸の一部として活用した。また、地元の「土佐市新居上ノ村遺跡護岸遺構保存会」が、伝統的な治水技術を伝える貴重な資料として、現地に石積み護岸遺構の一部を利用したモニュメントを平成22年度に設置した。</p> <p>(3)地域振興 本事業の完成にあわせて、波介川堤防を活用した市民マラソン「仁淀川ふれあいマラソン in TOSA City」が平成24年に開催され、以来、地元要望等もあり継続した市民マラソンイベントとして定着しつつある。 また、波介川河口導流事業に対する新居地区への振興策の一環として、鉄骨3階建ての観光交流施設「南風(まぜ)」が平成28年4月にオープンし、地元NPO法人「新居を元気にする会」が運営している。地場産品の販売や軽食コーナーがあるほか、隣には津波避難タワーが併設されている。今後、観光交流施設を地域振興や情報発信の拠点として、新居地区における交流人口の拡大と地域の活性化が期待されている。</p> <p>(4)企業誘致 地元土佐市では、導流路完成から1年後の平成25年に四国や関西の沿岸部の企業を対象にアンケートを実施し、導流路の完成により浸水危険域が大幅に減ったことなどをアピール材料に積極的な企業誘致活動を行っている。 平成27年6月には、隣接する高知市の酒造会社と企業立地に関する協定を締結し、事業所の移転計画が進んでいる。平成29年の操業開始を予定しており、地元農産物や土佐和紙などの利用の増加、県内外からの酒蔵見学客の誘致、地元雇用の創出など地域経済の活性化が期待されている。</p> |
| 四国1 | 四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、576頁 | <p>日下川放水路トンネル (中略)完成直後の五十五年の台風一三号による出水を含め、その後の洪水処理に大きな効果を発揮している。</p> |

河川20 仁淀川改修工事(高知県)

| No. | 資料名 | ストック効果に関する記述 |
|------|---|---|
| 四国2 | 建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、1988年)、228頁 | <p>日下川の激特事業 (中略)</p> <p>翌56年度には、いよいよ日高村民待望の我国最大級の約5000mの内水排除トンネルが完成し、日下川の内水排除の一翼を担うこととなった。また日下川の改修計画上もこの放水路は、70m³/sの河道配分を受け持ち、呑口部下流改修の一助となっている。完成直後の57年の13号台風では、威力を発揮するほか、大きな効果を挙げている。</p> |
| 四国22 | 土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」(土木学会中国四国支部、1991年)、138頁 | <p>日下川放水路の事業効果</p> <p>日下川放水路の設置によって、昭和50年8月の台風5号級が再来しても、軒下浸水を全て解消し、安全な避難場所を確保すると共に浸水時間を短縮して内水被害の大幅な軽減を図ることが可能となっています。</p> |